

啓11:15 第七の御使いがラツパを吹いた。すると、天に大声があつて言った、「世の王国は、私たちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」。

21:10 そして彼は私を霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下つて来るのを私に見せたが、11 それは神の栄光を持っていた。その光は最も尊い宝石のようであり、水晶のように透明な碧玉のようであった。

I. 主の回復は現在の邪悪な時代(邪悪な宗教の時代)に相對します:

A. ガラテヤ第1章4節は言います、「キリストは、私たちの罪のために、ご自身を与えられました。それは、彼が私たちの神また父のみこころにしたがって、私たちを現在の邪悪な時代から救い出すためです」:

1. 時代とは、サタン的な体系であるこの世の一区分、一面、またその現在の現れや現代的な現れを指しており、サタンはそれを用いて神の民を強奪し占有して、彼らを神と神の定められた御旨から遠ざけています。

エペソ2:2 かつてはそれらの中で、この世の時代に流され、空中の權威の支配者、すなわち不従順の子らの中に今も活動している霊の支配者にしたがって、歩いていました。

2. ガラテヤ人への手紙の文脈によれば、第1章4節の「現在の邪悪な時代」は宗教世界、世界の宗教界、ユダヤ宗教を指しています。この事は第6章14節から15節によって確証されており、その箇所は使徒パウロに対して十字架につけられた宗教世界について語っています。

ガラテヤ6:14 しかし、私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇るようなことが断じてあってはなりません。その方を通して、この世は私に対して十字架につけられ、私もこの世に対して十字架につけられてしまったのです。15 割礼も無割礼も重要ではありません。重要なのはただ新創造です。

現在の時代はサタンのコスモス、すなわち、彼のこの世の体系の現在の区分です。罪は悪魔的であり、現在の時代はサタン的です。悪魔として、神の敵は罪と関係があり、サタンとして、彼は邪悪な時代と関係があります。神の敵はこうかつであり、罪と邪悪な時代の背後に潜んでいます。キリストの十字架から離れて、私たちにはその背後に悪魔が隠れている罪や、その背後にサタンが隠れている邪悪な時代を対処する方法がありません。キリストが私たちの罪のために十字架につけられたのは、私たちをこの邪悪な時代から救い出すためでした。

3. キリストが私たちの罪のためにご自身を与えられた目的は、私たちを現在の邪悪な時代から救い出し、引き抜き、抜け出させるためでした。

4. キリストが十字架上で死んで私たちを現在の邪悪な時代から救い出したことは、キリストと召会に関する神のみこころにしたがっていました。

B. 宗教は、人の思いがサタンの扇動と指示を受けて神のエコノミーに反対するために形成したものです：

天は地のためであり、地は人の存在のためであり、霊を持つ人は神のためです。人は霊を用いて神と接触し、神を受け入れ、内容とし、吸収しなければなりません。…しかしながら、神の敵は決して眠りません。敵は入って来て、この聖書のすべての点を利用し、人を扇動して知性を活用させ、宗教を形成させました。…一見すると、宗教は神のためのように見えますが、実は、完全に神に反しています。

1. 宗教は神のためのもの、また人の益のためのものですが、それにはキリストがなく、キリストの霊から離れています。ガラテヤ5:4 律法によって義とされようとするあなたがたは、キリストから離され、無にもたらされています。あなたがたは恵みから落ちてしまったのです。

3:5 それでは、彼があなたがたにその霊をあふれるばかりに供給し、あなたがたの間で力あるわざを行なっておられるのは、律法の行ないに基づいているのですか、それとも信仰を聞くことに基づいているのですか？ 14 それは、アブラハムの祝福が、キリスト・イエスの中で異邦人に及ぶためであり、私たちが信仰を通して、約束されたその霊を受けるためなのです。

2. 宗教的であるとは、キリストやその霊なしに、神を礼拝し神に仕えることです。私たちは宗教的になるときはいつも、現在の邪悪な時代の中の罠に陥ります。

宗教とは、キリストの臨在なしに神を礼拝し、神のために働き、律法を守り、自分自身を改善し、宗教的に多くの良い事を行なうことです。それは良いかもしれませんが、やはり宗教です。なぜならキリストがないからです。

3. サタンは宗教世界を形成して、神から、神のみこころから、神の永遠の定められた御旨から私たちを遠ざけます：

大部分の人には、宗教がどれほど暗く邪悪であるかについて感覚がありません。もし部屋が長い間、にんにくの臭いに満たされるなら、その部屋にいるすべての人はその臭いに対する感覚を失いますが、もしたれかが新鮮な空気の所からその部屋に入って来るなら、その臭いに耐えることができないでしょう。

a. サタンは宗教を利用して、神のみこころであるキリストと召会から人を遠ざけます。

b. サタンは、神のみこころであるキリストとキリストのからだから私たちを遠ざけることができる限り、満足します：コロサイ1:9 こういうわけで、私たちもこの事を聞いた日から、あなたがたのために絶えず祈り、そして願い求めています。どうかあなたがたが、あらゆる霊的知恵と理解力において、神のみこころを知る全き知識で満たされ、

(1) 宗教の時代が邪悪であるのは、それがキリストと召会から人を遠ざけるからです。

(2) 神の目に、私たちがキリストから遠ざけるものほど邪悪なものはありません。

(3) 宗教の罨は、内住のキリストのすべての益を私たちから剥奪します。

4. 主には宗教(ユダヤ教、カトリック、プロテスタントを含む)の中では、彼の定められた御旨を成就する道がありません。

5. 私たちと宗教の間にあるのは十字架です。この世としての宗教は私たちに対して十字架につけられ、私たちも宗教に対して十字架につけられてしまいました。

C. パウロにとって、現在の邪悪な時代はユダヤ教でした。今日の私たちにとって、現在の邪悪な時代は変形し墮落したキリスト教です:

マタイ13:33 彼はもう一つのたとえを彼らに語られた。「天の王国はパン種のようなものである。ある女がそれを取って、三升の粉の中に隠すと、全体が発酵した」。44 天の王国は、畑に隠されている宝のようなものである。ある人がそれを見つけると、隠しておき、喜んで行って、持っているものをすべて売り払い、その畑を買う。

1. 私たちは、自分が現在の邪悪な時代の宗教の影響からどれほど救い出される必要があるかを認識する必要があります。

私たちは霊を活用してキリストに触れ、私たちの霊の中で彼を恵みとして経験する必要があります。これは神のエコノミーであり、このエコノミーは宗教に相対します。パウロの時代にはおもに一つの宗教がありました。今日は多くの宗教があります。それらの宗教は人に教えて神を礼拝させ、神に仕えさせ、神を喜ばせようとしますが、生けるキリストの経験から離れています。もしパウロの時の時代が邪悪であるなら、今日の時代はさらにいっそう邪悪です。もしパウロが聖徒たちにその宗教の時代の影響の下にいるべきではないことを明らかにしたのなら、私たちはどれほどさらに私たちの時代の宗教の影響から救い出される必要があることでしょう。

2. 召会はキリストの生けるからだですが、今日私たちを取り巻いているのは、伝統、組織、演技、虚偽に満ちた宗教、すなわち変形し墮落したキリスト教です。主はこのような状況の中では彼の定められた御旨を完成することはできません。

3. 私たちはみな宗教から、すなわち現在の邪悪な時代であるキリスト教から救い出される必要があります。私たちはバビロンから出て来なければならず、またバビロンは私たちから出て行かなければなりません。啓18:4 私はまた、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた、「私の民よ、彼女から出よ。それは、あなたがたが彼女の罪に加わらないためであり、また、あなたがたが彼女の災害を被らないためである。 3

4. 主の回復における私たちの間の歴史は、キリスト教から出て来る歴史でした。すなわち、現在の邪悪な時代から出て来て、現在の邪悪な時代の外にいるという歴史でした。

ヘブル13:12 こういうわけで、イエスもご自身の血を通して民を聖別するために、門の外で苦しまれたのです。13 ですから、私たちは彼のそしりを担い、営所の外に出て、彼へと行こうではありませんか。

5. 主の回復は今日の宗教(変形し墮落したキリスト教)とは異なっているので、主の回復とキリスト教の間に妥協はあり得ません。

私たちが純粋な召会生活のために立っているゆえに、他の人たちは気分を害してきました。しかし、私たちに何ができるのでしょうか？ パウロはガラテヤ人への手紙第1章10節で言いました、「もし私が、なおも人を喜ばせようとしているなら、私はキリストの奴隷ではありません」。もし私たちが人を喜ばせる者であるなら、パウロのように迫害を受けなかったでしょう。主の回復の歴史は、現在の邪悪な時代から出て来て現在の邪悪な時代の外にいるという歴史です。私たちは、私たちとキリスト教との間の橋を焼いてしまいましたが、私たちのある者は、橋を築いて私たちを連れ戻そうとしてきました。私たちはすべての橋を焼く必要があります。地方召会とキリスト教との間に橋があってはなりません。すべてのものは、その種類にしたがっているべきです。宗派は彼らの種類にしたがっており、地方召会はその種類にしたがっているべきです。私たちは妥協や見せかけなしに、私たちが何であるかであるべきです。

6. 私たちは主の回復とキリスト教の間の隔たりを保つ必要があります。この隔たりが大きければ大きいほど良いのです。なぜなら、これは私たちと現在の邪悪な時代の間の隔たりであるからです。

## II. 世界の終末論(世界の終わりについての研究)があるだけでなく、召会の終末論もあります:

啓12:10 また私は、天で大きな声がこう言うのを聞いた、「今、私たちの神の救いと力と王国と、彼のキリストの権威とが来た。私たちの兄弟たちを訴える者、昼も夜も私たちの神の御前に彼らを訴える者が、投げ落とされたからである。

A. 召会の終末論は、カトリック、プロテスタント、当初の召会と回復された召会を含んでいます。

B. 「回復された召会」という言葉が指しているのは、当初の召会、すなわち聖書の中の神聖な啓示にしたがった召会です:

1. 使徒たちは当初の召会を設立しましたが、ペテロ、ヨハネ、パウロがまだ生きていた時でさえ、召会は当初の状態から落ちて墮落した状態、変形した状態、さらには変質した状態になりました。

Ⅱテモテ2:19 しかしながら、神の堅固な土台はこの証印を帯びて立っています。その証印には、「主はご自分の者たちを知っておられる」、また「主の御名を呼ぶ者はみな不義から離れよ」と

あります。20 ところが、大きな家には金や銀の器だけではなく、木や土の器もあり、そしてあるものは尊いことに、あるものは卑しいことに用いられます。21 ですから、だれでも自分自身をこれらのものから清めるなら、その人は尊いことに用いられる器となり、聖別され、主人に役立ち、あらゆる良いわざに間に合う者となるのです。

2. テモテへの第二の手紙、ペテロの第二の手紙、ヨハネの第二と第三の手紙(回復の手紙)が示しているように、当初の召会が設立して間もなく、回復された召会があるようになりました。

C. カトリックの実際の状態と最後は、啓示録第17章で啓示されています。

**啓17:04** その女は紫と緋色の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、手には忌むべきものと、彼女の淫行の汚れた物で満ちた金の杯を持っていた。16 あなたが見た十の角と獣は遊女を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、彼女の肉を食い、彼女を火で焼き尽くすであろう。

D. プロテスタントには、多くの「毒麦」、すなわち偽信者たちがいます。

プロテスタントは、偽信者たちに満ちています。マタイによる福音書第13章で、主は私たちに、天の王国は自分の畑に良い麦の種をまく人のようなものであるが、彼の敵がやって来て、小麦の間に毒麦をまいて立ち去ったと告げました。…主は、この時代の満了の時に、御使いたちを遣わして、これらの毒麦(あらゆる種類の召会にいるすべての偽の名ばかりのクリスチャンを表徴する)をみな集めて、火の池に投げ込むと言いました。…彼らの結末は、反キリストと偽預言者と同じになります。反キリストと偽預言者はいずれも正式な裁きを経過せずに、直接火の池に投げ込まれるでしょう。…当初の、回復された召会が真の召会です。

E. 当初の召会と回復された召会が、真の召会です:

1. 回復された召会の中で、私たちは常に狭い道を取ります。
2. 回復された召会にあずかっている人は、クリスチャン生活の特別な学課を学びます:
  - a. キリストを知る。
  - b. 肉と自己を知る。
  - c. どのように十字架につけられて神・人の生活をするかを学ぶ。

F. 主は再来する時、カトリック、プロテスタント、当初の召会と回復された召会を裁き、対処します:

1. 彼は、あらゆる種類の召会の中にいる彼の真の信者たちをすべて彼の裁きの座の前に召し集めて、彼の裁きと対処を受けさせます。

**Ⅱコリント5:10** なぜなら、私たちはみな、キリストの裁きの座の前に現れなければならないからであり、それは善であれ悪であれ、めいめいが実際に行なった事にしたがって、体を通してなされた **5**

事柄に対して報酬を受けるからです。

2. その裁きにおいて、主は彼らが金、銀、宝石をもって建造してきたのか、それとも木、草、刈り株をもって建造してきたのかを判別します。

Iコリント3:12 ところが、その土台の上に、人が金、銀、宝石、木、草、刈り株をもって建てるなら、13 それぞれの人の働きはあらわになります。なぜなら、かの日がそれを明らかにするからです。すなわち、それは火によって現され、その火自身が、それぞれの人の働きがどんなものであるかを証明するのです。

3. 造り変えられて金、銀、宝石となっている勝利者たちは褒賞を受けて、千年王国の新エルサレムの中にいるようになります。

啓3:12 勝利を得る者を、私の神の宮の柱にしよう。彼はもはや決して外に出ることはない。私はまた彼の上に、私の神の御名と、私の神の都、すなわち天から出て、私の神から下って来る新しいエルサレムの名と、私の新しい名とを書き記そう。

主は再来される時、カトリックやプロテスタントを裁き対処されるだけでなく、当初の回復された召会をも裁き対処されるでしょう。… 主が再来される時、造り変えられて金、銀、宝石となっている勝利者たちは褒賞を受けて、千年王国の新エルサレムの中にいるようになります。啓示録は私たちに見せていますが、新エルサレムは勝利者にとって、千年間の神のパラダイスとなります。しかし、木、草、刈り株を生み出した人たちは、彼らの働きが主の再来の時に焼き尽くされて、火をくぐってきたように救われます。彼らは千年間、主から懲らしめを受けます。最終的に、主の忍耐を通して、彼らもまた成就されて、神の建造のための尊い材料へと造り変えられます。千年間の終わりに、彼らもその究極的完成の新エルサレムに加わり、あずかります。これが、当初の回復された召会の真の状態と結末です。

4. 宗教は終わらされますが、キリストの花嫁は用意を整えます。

啓19:1 これらの事の後、私は、天で大群衆の大声のようなものが、こう言うのを聞いた、「ハレルヤ！ 救いと栄光と力とは、私たちの神のものである。2 彼の裁きは真実で義である。彼は、淫行をもって地を墮落させたあの大遊女を裁き、彼女の手で流された彼の奴隷たちの血の報復をされたからである」。

- G. 最終的に、すべての真の信者は神の定められた御旨の究極的完成である新エルサレムの中にいるようになります。

啓21:2 私はまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。

- ① Iヨハネ2:15 世と世にあるものを愛してはいけません。だれでも世を愛するなら、御父への愛は彼の中にありません。16 なぜなら、すべて世にあるもの、すなわち肉の情欲と目の情欲と生活の虚栄とは、御父から出たものではなく、世から出たものであるからです。

FN「世と世にあるものを愛してはいけません」:神は、ご自身の定められた御旨を成就するために、人を創造して地に住まわせられました。ところが神の敵サタンは、神の創造された人を横領するために、この地上に神に敵対する世の体系を形成しました。それは、人の墮落した性質を通して、人の情欲、享楽、追求の中で、人の生活に必要なもの(衣、食、住、交通手段)を放縦することで、宗教、文化、教育、工業、商業、娯楽を使って、人を体系化することによります。このようなサタンの体系全体は、邪悪な者の中に横たわっています。この世を愛さないことは、邪悪な者に打ち勝つための立場です。ほんの少しでも世を愛するなら、邪悪な者が私たちを打ち破り、彼に占有する立場を与えます。

FN「肉の情欲と目の情欲と生活の虚栄」:肉の情欲とは、体の情欲です。目の情欲とは、目を通しての魂の情欲です。生活の虚栄とは、現在の生活の虚しい誇り、高ぶり、物質の虚栄です。

- ② 実際的には、あなたは主と召会を愛し、残業を制限しなければなりません。

日本におけるこの世の体系は、就職した後、残業を用いて神の民が神のエコノミーを遂行するために祈りの集会や小組の集会に参加したり、福音や養いのために訪問したりすることをできなくしています。あなたは、皆が残業するので、あるいは上司が残業するので、自分だけが帰ることはできないと考えるでしょう。日本において、残業を制限し、神のエコノミーのために働くことは不可能なことです。ところが、主は、人ができないことを要求しているのです。信仰を活用して、人にとって不可能なことを実行してください。アーメン!

マタイ19:26 イエスは彼らを見つめて言われた、「それは人にはできないが、神にはすべての事ができる」。

- ③ あなたは明日のことを思い煩わず、一日一日を信仰によって、主の中で在職生活を送ってください。そうすれば、主は必ずあなたのビジネス・ライフを祝福してくださいます。マタイ6:29 しかし、私はあなたがたに言う。栄華を極めたソロモンでさえ、これらの一つほどにも着飾ってはいなかった。30 今日はこちらにあっても、明日は炉に投げ入れられる野の草を、神はこのように装ってくださるのだから、あなたがたにはなおさら、着せてくださらないはずがあるだろうか？ あなたがた信仰の小さい者よ。31 こういうわけで、『何を食べようか？何を飲もうか？何を着ようか？』と言って、思い煩ってはならない。32 なぜなら、これらの物はすべて、異邦人が切に求めているからである。あなたがたの天の父は、これらの物がすべてあなたがたに必要であることを、ご存じなのである。33 むしろ、まず父の王国と父の義を求めなさい。そうすれば、これらの物はすべて、あなたがたに加えられる。34 こういうわけで、明日のことを思い煩ってはならない。明日は明日自身が思い煩うからである。その日の苦労は、その日だけで十分である。 7

1 わが王はさいりんし、万ぶつは復こうし、  
宇ちゅうはあがなわれ、すくい完成する!  
われはくものなかの 主のあしおと聞き、  
主の栄光のひそかな あらわれを見る。

1 我王必定快要再臨，天空都滿了祂!  
待贖宇宙快得復興，主要完成救法!  
我已聽見祂的腳聲，在那彩雲中間  
我已看見祂的榮身，隱約顯露在天

2 主の「臨ざい」をのぞむ、主がさいりんして、  
われに天を得さすよう、われ待ちのぞむ。  
すばらしい臨在のなか あること以がいに、  
こころのしたうもの、われは持たない。

2 我今仰望我主『同在』不敢懈怠一點  
我今等候我主再來，使我得著所天  
除了我主此刻就來，接我與祂同在  
除了這件美事以外，我心別無所愛

3 こころ、もう天にあり、目はただ主、見つめ、  
くちは主に会うこと、ひたすらかたる。  
主のさい臨は間ちか、それはわれのため;  
主のやくそくは不変、かならず成就す。

3 我眼專看我的救主，我心已經在天  
我口不說別的題目，只說與主相見  
主的再臨已經緊近，主來原是為我  
主的應許永遠堅定，從來沒有空說

4 主のことばは不へん、かんぜんでかん備、  
そのことばをもって、われをはげます。  
なが栄こうあらわし、てきを打ちやぶり、  
ながやくそく成就し、われ、むかえませ。

4 我的救主，你的聖言無可惑無可滅  
我今忠誠不顧臉面，因你聖言自勉  
願你榮耀早日顯現，仇敵敗，陰府陷  
願你應許早日應驗，接我們到那邊

5 すくいぬしのうでは、われのさけどころ!  
なれにたよるものを、みなまられる;  
主はひつじをとうとび、からだ、ひつ要とす;  
だれもなれの手より、うばうものなし。

5 你的膀臂是逃避所 耶穌救主我神!  
你像天父一樣保妥一切靠你的人  
羊和牧者同樣輕重，身和頭同境遇  
誰也不能從你手中，奪去你的兒女

6 もはや千万のひとも、われをさまたげず;  
路上のいばらさえも、わがえきとなる。  
こころ、れい、復興せよ、この世を去らせよ;  
いのちの主よ!来ませ、われ、なれを待つ。

6 千人的手不能阻我，萬人的眼也不  
路上荊棘，不過助我 忠勇進前得福  
我心!我靈!今當復興，讓這世界過去  
生命的主!求你快臨，接我進入天域

1. My King will soon come back again,  
The sky be filled with Him;  
The universe to be redeemed  
Will see His light therein.  
The Lord will soon fulfill His plan,  
His footsteps now I hear;  
His glorious frame I faintly see  
Beginning to appear.

2. I'm longing for His presence blest  
And dare not slothful be  
While waiting for my Lord's return,  
His own dear self to see.  
My only hope - that He may come  
And change my faith to sight;  
There is no other joy on earth  
Which gives my heart delight.

3. My heart is always with Himself,  
My eyes are heavenward,  
My lips would utter nothing else  
Than meeting with my Lord.  
The coming of the Lord draws nigh,  
His coming is for me;  
His promise ever standeth firm  
And soon fulfilled I'll see.

4. My Savior, all Thy holy words  
Can never doubted be;  
With them encouraged day by day,  
I'm faithful unto Thee.  
Oh, may Thy glory soon appear,  
The foe be overthrown;  
Thy promises be realized,  
And we brought to Thy throne.